

平成 17 年度（社）外国映画輸入配給協会事業報告

平成 17 年度定時総会

平成 17 年度定時総会が以下の通りおこなわれた。

開催日： 平成 17 年 6 月 3 日

平成 16 年度事業報告、決算報告ならびに平成 17 年度事業計画、収支予算は承認可決された。

理事の任期満了に伴い、理事迫本淳一、理事平沼久典、理事林瑞峰、理事加藤鉄也、理事杉山章、理事大藏満彦、理事長瀬文男、理事角川歴彦、理事佐久間昇二、理事中村稔、理事江川信也、理事黒田陽子の 12 氏の選任が承認可決された。

平成 17 年 1 月 21 日開催の理事会において、前任者補欠として選任された理事依田巽氏の選任が承認可決された。

監事の任期満了に伴い、監事中雅俊、監事岩崎敏久の 2 氏の選任が承認可決された。

総会後の理事会において、会長：迫本淳一理事、副会長：平沼久典理事、常務理事：椎名保理事が選任された。

平成 17 年度の事業活動は以下の通り

1) 外国映画事業、映画関係法規等の調査、研究並びに資料の収集および作成

平成 17 年度外国映画作品目録を平成 17 年 1 月に発行。続いて 2 月と 3 月に補足資料を発行して本資料を完成。平成 17 年度外画概況 国別、会社別を 7 月と 1 月に発行。作品目録ならびに外画概況は別添。

2) 優秀な外国映画の保存及び公開

1. 東京国立近代美術館フィルムセンターへのフィルム寄贈

当協会会員会社から東京国立近代美術館フィルムセンターに永久貸与された作品は 8 本であった。会員各社の作品契約の諸条件の中で、海外契約相手のプロデューサーからの賛同を得て、日本（東京国立近代美術館フィルムセン

ター)にプリントを残す運動は、地道な活動ではあるが、重要な仕事であると認識して、各社が努力している。

2. 「トーキョーシネマショー」の開催

10回目を迎えた「トーキョーシネマショー」は「GTF2005トーキョーシネマショー」として以下の通り開催された。

会場：内幸町イイノホール

会期：8月12日～8月18日

主催：社団法人外国映画輸入配給協会

共催：社団法人日本映画製作者連盟

全国興行生活衛生同業組合連合会

モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)

GTFグレートウキョウフェスティバル実行委員会

後援：経済産業省、財団法人日本映像国際振興協会

プログラム

○試写会

8月12日(金)～8月17日(水)

8月12日～8月17日まで外配協・MPA・映連会員、加盟会社により上映された新作作品は15本であった。

試写会作品出品内訳

外配協	5社	8本
MPA	5社	5本
映連	2社	2本
合計		15本

各試写会作品名と試写会ならびにスペシャルイベント・予告篇入場者数

			着券数(枚)		動員数(人)
			1名	2名	合計
8月12日	金	疾走	156	210	576
		チャーリーとチョコレート工場	107	299	705
8月13日	土	青空のゆくえ	161	102	365
		釣りバカ日誌	153	203	559
		シンデレラマン	142	276	694
8月14日	日	ロンゲストヤード	185	210	605
		ランド・オブ・ザ・デット	213	189	591
		私の頭の中の消しゴム	140	269	678
8月15日	月	ルパン	177	226	629
		ミート・ザ・ペアレンツ	177	244	665
		カーテンコール	152	177	506
8月16日	火	トンケの蒼い空	221	176	573
		ファンタスティックフォー	184	243	670
8月17日	水	鷹がくるりと	149	144	437
		タッチ	150	207	564
8月18日	木	予告編ミニシアター	322	52	426
		予告編全国拡大	344	45	434
		筑紫イベント	283	40	363
合計			3,416	3,312	10,040

2005年秋～2006年 予告篇プレゼンテーション

8月18日(木)

2005年秋～2006年公開予定のシネマの大作・話題作・異色作の予告篇115本を一挙公開。映画館でも上映されていない初公開の予告篇・最新バージョンの予告篇も上映。

第一部 ミニシアター系公開作品部門

午前10時30分～午後12時00分

第二部 全国拡大公開作品部門

午後1時00分～2時50分

ナビゲーター：襟川 クロ(映画パーソナリティ)

上映された予告篇数

ミニシアター系公開作品部門

外配協 18社 51本

合計 51本

全国拡大公開作品部門

外配協 12社 39本

M P A	5社	18本
映連	1社	7本
合計		64本

総合計 115本

G T F 2 0 0 5 トーキョーシネマショーを紹介するパンフレットは無料にて来場者全員に配られた。

○スペシャルイベント

8月18日(木) 15時15分～17時00分

第1回 「筑紫賞：ゴールデンタイトル・アワード」 授賞式

- 映画をより多くの人に、日本語をより豊かに
平成16年より始まった「映画館に行こう！」キャンペーンの“映画大使”
として活動しているジャーナリスト・筑紫哲也氏の発案で、優れた日本語題
名(タイトル)を顕彰することになった。
賞を創設するにあたり、筑紫哲也氏より次のような文章を寄せられた。

「かつて映画の題名(タイトル)は、邦画、洋画を問わず流行語の“宝庫”
でした。とくに輸入映画の場合、原題と引き較べて『うまい!』と宣伝部の
腕の冴えと日本語の素養にうならされることがありました。近年は(輸出元
の指定もあるのでしょうが)原題のカタカナ直しが目立ち、日本語の崩壊、
カタカナ文字の氾濫に寄与している面のほうが大きいように見えます。秀れ
たタイトルは多くの人々の注意を引き、興行収入にも貢献するという映画界に
とっての実利もあるはずです。

映画がより多くの人に見られるために、日本語がより豊かになるために、こ
こに賞を提案した次第です。そのあとは映画のなかみですが、それは作る人
たちの腕次第、そちらにお任せしましょう。」

受賞作品： 「箏笥」 (原題 A TALE OF TWO SISTERS)

配 給 株式会社 コムストック

選 評 筑紫哲也

『海を飛ぶ夢』(洋画) 『北の零年』(邦画) が衆目の一致する“本命”だ
と思ったが、あえて、『箏笥』を選んだのは、原題(二人の姉妹の物語)と全
く異なる邦題のほうが、この作品の怖さが伝わる点を評価した。私が意見を
聞いた若者たちにはなじみのない漢字のはずなのに、彼らに支持されている、

という面白さと工夫も買った。若者は映画の大事なお客なのだから。

・トークショー「ジャーナリスト筑紫哲也が探る映画の“今”」

- 映画はいつも私たちに夢と希望を与えてくれた！

ホスト：筑紫哲也（ジャーナリスト）

ゲスト：佐々部清（映画監督）、藤村志保（女優）、香川照之（俳優）

昭和30年代の終わりから、昭和40年代の中頃まで、どの街にも小さな映画館があった。誰もが家族と一緒に立ち見で映画を楽しんでいた時代。「チルソクの夏」、「半落ち」、「四日間の奇蹟」の佐々部清監督が、その時代を最新作「カーテンコール」に綴った。昭和33年生まれの監督がこの作品を作った想いは今の映画、未来の映画と繋がるのか。ジャーナリスト筑紫哲也氏が、佐々部監督、40数年トップ女優として日本映画を支えた藤村志保氏、そして、俳優・ライターとしてその活躍が今注目を集めている香川照之氏の皆様をゲストに迎え、日本映画の豊かさ、可能性を探る。

3. 第44回「優秀外国映画輸入配給賞」の実施

社団法人外国映画輸入配給協会が昭和37年度（1962年）から通商産業省（現経済産業省）の後援を得て制定した「優秀外国映画輸入配給賞」も平成17年度で44回を迎えた。第44回同賞は平成17年4月1日から平成18年3月31日迄の1年間に作品的に優秀で、なおかつ新分野を開拓し、日本映画界の発展に大きく寄与するものと認められた外国映画を我が国に輸入公開した配給会社を表彰する為、11名（別項表示）の審査員により審査がおこなわれ、各賞が決定した。

概要は以下の通り

審査委員・運営委員合同会議は、6月8日（水）に開催され、第44回「優秀外国映画輸入配給賞」の実施要項が承認された後、第44回の審査員が紹介され、審査委員長に品田雄吉氏、副委員長に秋山登氏の就任が決定した。

審査員：相原 斎、秋山 登、宇井 寿之、佐藤 和佳子、品田 雄吉、
関口 裕子、竹入 栄二郎、田之倉 稔、土屋 好生、西山 均、
丹羽 勝海（五十音字）

主 催：社団法人外国映画輸入配給協会

後 援：経済産業省

審査経過報告書

第1回審査会

第1回審査会は2月9日(木)に開かれた。品田審査委員長から、審査の基本方針について説明が行われ、外国映画輸入配給協会が作成した2005年度「外国映画作品目録」を資料に、審査対象会社84社(当協会会員会社27社、MPA加盟会社5社、その他52社)を一社ずつ配給した全作品を検討しつつ審議を行った結果、最終審査会には以下の12社が選ばれた。

エイベックス・エンタテインメント株式会社

「メトロで恋して」_、「灯台守の恋」_、「歓びを歌にのせて」

有限会社ビターズ・エンド

「ウィスキー」_、「ある子供」_、「世界」

株式会社フランス映画社

「エレニの旅」

株式会社ギャガ・コミュニケーションズ

「バッド・エデュケーション」_、「ヒトラー最期の12日間」_、「皇帝ペンギン」_、

「ライフ・イズ・ミラクル」_、「理想の女」_、「^{ひと}頭文字D ^{イニシャル} THE MOVIE」_、「私の頭の中の消しゴム」_、「ロード・オブ・ウォー」

ムービーアイ・エンタテインメント株式会社

「オープン・ウォーター」_、「そして、ひと粒のひかり」_、「秘密のかけら」_、「ミリオンダラー・ベイビー」

東宝東和株式会社

「海を飛ぶ夢」_、「風の前奏曲」_、「Mr. & Mrs. スミス」

東京テアトル株式会社

「ヴェラ・ドレイク」_、「輝ける青春」_、「マルチュク青春通り」_、「ヴェニスの人」

株式会社ワイズポリシー

「Jの悲劇」_、「ブロークバック・マウンテン」

20世紀フォックス映画
「ドッジボール」_」「キングダム・オブ・ヘブン」_」「メリンダとメリンダ」_」「STAR WARS エピソード3 シスの復讐」_」「イン・ハー・シューズ」

ワーナー エンターテイメント ジャパン株式会社
ワーナー・ブラザーズ映画
「バットマン ビギンズ」_」「チャーリーとチョコレート工場」_」「ハリー・ポッターと炎のゴブレット」

株式会社メディア・スーツ
「サーティーン あの頃欲しかった愛のこと」_」「真夜中のピアニスト」_」「ホテル・ルワンダ」

有限会社オフィスサンマルサン
「亀も空を飛ぶ」

第2回審査会（最終審査会）

第2回審査会は3月9日（木曜）に開かれた。上記配給会社が公開した作品の興行成績を参考に、審査を行い以下の授賞が決定した。

経済産業大臣賞

ムービーアイ・エンタテインメント株式会社
「ミリオンダラー・ベイビー」(松竹(株)共同配給)_」「クラッシュ」_」「そして、ひと粒のひかり」_」「ヒストリー・オブ・バイオレンス」

ムービーアイ・エンタテインメント(株)は、ユニークで粒の揃った作品を公開し、輸入作品選択の確かな眼を印象づけた。米アカデミー賞作品賞受賞の「ミリオンダラー・ベイビー」と「クラッシュ」を連続して公開したのみではなく、「そして、ひと粒のひかり」_」「ヒストリー・オブ・バイオレンス」の秀作を公開し、その活躍は映画業界に刺激を与え映画産業発展に大きく寄与した。

特別賞

東宝東和株式会社
「Mr. & Mrs. スミス」_」「海を飛ぶ夢」_」「風の前奏曲」

東宝東和(株)は、「Mr. & Mrs. スミス」で正月の映画興行を盛り上げ、「海を飛

ぶ夢」で観客に大きな感動を与え、「風の前奏曲」はタイ映画の魅力を伝えた。

ワーナー・ブラザーズ映画

「ハリー・ポッターと炎のゴブレット」_」、「チャーリーとチョコレート工場」_」、「バットマン ビギンズ」

ワーナー・ブラザーズ映画は、「ハリー・ポッターと炎のゴブレット」_」、「チャーリーとチョコレート工場」_」、「バットマン ビギンズ」の日本公開を成功させ、映画観客の期待に良く応え、映画産業の活性化に大きく寄与した。

株式会社ギャガ・コミュニケーションズ

「皇帝ペンギン」_」、「私の頭の中の消しゴム」_」、「ヒトラー最期の12日間」_」、「Shall we Dance? シャル・ウィ・ダンス？」

(株)ギャガ・コミュニケーションズは、「皇帝ペンギン」_」、「私の頭の中の消しゴム」_」、「ヒトラー最期の12日間」_」、「Shall we Dance? シャル・ウィ・ダンス？」と個性とバラエティに富む秀作の公開を実現させ、映画ファン拡大に大きく寄与した。

奨励賞

東京テアトル株式会社

「輝ける青春」_」、「ヴェニス商人」(株)アートポート共同配給)、「ヴェラ・ドレイク」

東京テアトル(株)は、上映時間6時間6分の超長編ドラマ「輝ける青春」の一般公開の道を開拓して上映を成功させた。その力は、「ヴェニス商人」と「ヴェラ・ドレイク」の渋く、魅力ある作品公開にも発揮され、観客を感動させた。

株式会社メディア・スーツ

「ホテル・ルワンダ」(有)インターフィルム共同配給)、「真夜中のピアニスト」(株)ハピネット・ピクチャーズ共同配給)

(株)メディア・スーツは、話題作「ホテル・ルワンダ」の上映を実現させ、ロングランに繋がった。その真摯な映画への姿勢は「真夜中のピアニスト」公開にも示され、映画観客に満足と感動を与え、映画界の刺激となった。

審査会は、(有)オフィスサンマルサンが「亀も空を飛ぶ」を、(株)フランス映画社が「エレニの旅」を、会社一丸となって丁寧に公開したことに敬意を表した。また、(有)ビターズ・エンドの映画作品に寄せる意欲、(株)ワイズポリシーの独自のカラーで作品を公開しようとする姿勢に大きな期待が寄せられた。

授賞式は平成18年4月20日に開催され、一般応募者を招待し、ムービーアイ・エンタテインメント(株)提供の「ミリオンダラー・ベイビー」の受賞記念特別試写会を行った。

4. 適正な音量による予告篇上映の実施と検証

輸入配給された作品ならびに予告篇が、映画館で観客に満足される状態で上映されるべく、平成16年から活動をしている「予告篇音量適正化委員会」((社)日本映画産業団体連合会が中心となって運営)に協力し、引き続き映画館において「85Leq(m)以下」と決定した音量適正值による予告篇上映実施と検証を続け、外配協会員各社のこの問題への関心を高めた。

3) 国際協力に資する各種映画祭の開催協力

1. 以下の映画祭の後援・協力を行い、各映画祭が成功裡に開催されるよう協力した。
2. 第18回東京国際映画祭運営に協力をし、上映作品のフィルム通関、翻訳、字幕製作に協力した。
3. 英国UK Film Council Internationalが平成18年3月13日から15日まで行った英国映画販売企業6社からなる代表団一行の日本の洋画配給会社、興行会社、製作会社とのパートナーシップ確立の為の訪日準備の協力をした。

平成17年度 外配協後援各種映画祭

	映 画 祭	会 期	会 場
	「第13回フランス映画祭 横浜2005」	平成17年6月15日 (水)から19日(日)	パシフィコ横浜メイ ンホール他

		迄	
	「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2005」	平成17年7月16日(土)から24日(日) 迄	SKIPシティを中心とした埼玉県川口市一帯
	「グレーター トウキョウ フェスティバル2005」	平成17年7月21日(木)から9月5(月) 迄	東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、各会場
	「あいち国際女性映画祭2005」	平成17年9月7日(水)から11日(日) 迄	愛知県女性総合センター
	「山形ドキュメンタリー映画祭2005」	平成17年10月7日(金)から13日(木) 迄	山形市中央公民館、市内各映画館他
	第18回「東京国際映画祭」	平成17年10月22日(土)から30日(日) 迄	六本木ヒルズ、渋谷 Bunkamura 他
	「第10回神戸100年映画祭」	平成17年10月28日(金)から11月7日(月) 迄	神戸アートビレッジセンター、神戸市立博物館他
	「第18回 さっぽろ映画祭」	平成17年11月2日(水)から6日(日) 迄	ユナイテッド・シネマ札幌他
	「第12回大阪ヨーロッパ映画祭」	平成17年11月5日(土)から28日(月) 迄	海遊館ホール、梅田スカイビル他
	「韓国エンタテインメント映画祭2005 in大阪」	平成17年12月10日(土) 11日(日)	リサイタルホール
	「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2006」	平成18年2月23日(木)から27日(月) 迄	夕張市民会館他
	「フランス映画祭2006」	平成18年3月15日(水)から19日(日) 迄	東京 / シネマメディアージュ、VIRGIN TOHO CINEMAS 六本木ヒルズ、大阪 / TOHO シネマズ高槻他

4) 輸入外国映画の品質、興行成績及び事故による損傷、滅失等の評価、鑑定又は証明

全国興行生活衛生同業組合連合会（全興連）が主催する毎月1回、年12回実施される「映画サービスデー」に協力するとともに、全興連が作成する同日の興行成績対比などの資料を活用し、観客動員の増加に努めると同時に輸入外国映画の品質、興行成績、興行における事故等の最新の情報収集に努めた。

5) 輸入外国映画の国際取引に係る紛争解決の斡旋

1. 当協会会員各社は作品契約に際して諸般の事情の許す限り情報交換を行い、買付に当たっての重複を避けると共に、過当競争を防止し、日本における輸入配給事業の健全な発展を計るよう努力した。
2. 劇場用長編外国映画のビデオカセット、DVD及びブロードバンドをはじめとする映像産業の多様化に伴う諸対策に関する件
インターネット上で劇場用長編映画ファイル共有・交換サイトに違法にアップロードされた作品を元に違法映像と音声ファイルをダウンロードし、このファイルを元にした大量の無断複製による海賊版DVDが露天商で売買されている著作権侵害は、日本の輸入配給事業の健全な発展を阻むものであり、外国映画の国際取引に大きな影響を与えかねない問題を孕んでいることから、(社)日本映画産業団体連合会、(社)日本映画製作者連盟、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)、全国興行生活衛生同業組合連合会、(社)日本映像ソフト協会、日本映画著作権協会他と緊密な連絡をとり諸対策を検討した。
3. 劇場上映映画の盗撮防止対策の件と「劇映画不正コピー対策協議会」の発足
不正コピーを阻止する第一段階として、日本の劇場内で上映中の邦画・洋画の画像が盗み撮りされ、音声録音されるのを防ぐために、(社)日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、MPA、(社)外国映画輸入配給協会は、不正商品対策協議会と連携して平成16年対策会議を組織し、「著作権保護と観客への迷惑防止の観点から、録音・録画・撮影を遠慮願いたい」旨を表明したポスターを作成し、日本全国の全興連組合員傘下の映画館に掲出。

17年度は、引き続き本件に関する海外の状況をも調査・把握するとともに、各映画館における実態調査アンケートを実施した。

平成17年9月には映連、全興連、MPA、外配協は会員会社から委員を選出し、(社)日本映像ソフト協会、不正商品対策協議会、日本国際映画著作権協会(JIMCA)と連携して、「劇映画不正コピー対策協議会」を正式に発足させ、本件についての協議を重ねた。平成18年1月31日に、日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、外国映画輸入配給協会、MPA・アジア太平洋地域統括本部、日本映像ソフト協会との連名で、「映画館での盗み撮り行為に罰則を」の声明文を発表した。

本件に関する(社)外国映画輸入配給協会の基本的な方針は、政策委員会で審議・決定され、「知的財産保護委員会」を通して外配協各部会に通知され、審議された。

6) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

1. 映画館に行こう！実行委員会、キャンペーン事業への参加

映画人口の2億人拡大を実現し、映画産業と日本経済の発展に資する事を目的に、(社)日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、(社)外国映画輸入配給協会、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)の映画業界4団体が平成16年に発足させた「映画館に行こう！実行委員会」の平成17年度事業に積極的に参加した。

第一弾として、中高年の映画人口拡大を目的に、50代夫婦への生活提案をテーマにして展開したキャンペーン告知の新聞広告は、平成17年度にも、10月20日の新聞広告の日に「広告主企画部門新聞広告賞」を受賞した。

同実行委員会が任命した映画大使筑紫哲也氏の発案で、実行委員会が創設した「筑紫賞：ゴールドエンタイトル・アワード」の受賞式を「GTF2005 トーキョーシネマショー」の中で行った。(同賞の内容は別添)

平成17年7月1日から始めた「映画館に行こう！」キャンペーン第2弾は、高校生に「いい仲間と観ると、いい映画になる。いい映画を観ると、いい仲間になる」というキャッチ・フレーズで呼びかけ、友達を誘って、いろいろな映画を観て、映画の持つ深さや楽しさなどを味わい、併せて友情を深めてもらえればという企画をたて、当協会はこのキャンペーンに積極的に参加した。

2. 宣伝デジタル委員会への参加

(社)日本映画製作者連盟、(社)外国映画輸入配給協会、MPAの宣伝部が委員会を立上げ、平成17年度も「映画館に行こう！」キャンペーン第2弾の趣旨に沿ったデジタル部門のサポートを検討し、外配協ならびに会員各社は「映画館に行こう！」キャンペーンホームページの運営管理に参加している。

3. 年頭名刺交換会の開催

モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)の協力を得て、日本の映画産業を支える配給、興行、宣伝、製作関係者に参加いただき、年頭にあたり外国映画輸入配給事業の健全な発達を図り我が国経済の発展と文化の向上に寄与することを目的として平成18年は、平成17年に引き続き1月5日(木)に「年頭名刺交換会」を開催した。

4. 各種映画賞運営に協力

第29回「日本アカデミー賞」、第60回「毎日映画コンクール」の運営に協力した。東京映画記者会主催の第48回「ブルーリボン賞」に後援者として協力した。

5. (社)映画産業団体連合会会員としての活動

社団法人映画産業団体連合会の正会員として、当協会会長は理事として定時総会、定例理事会に出席し、事務局長はオブザーバーとして同席。映団連会員団体事務局長連絡会議に出席、映団連の会員として当協会の基盤の安定に努力した。映団連主催の第50回「映画の日」運営に協力した。

6. 外画宣伝部長会

当協会会員会社とモーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)加盟会社の宣伝部長で構成される宣伝部長会を開き、直面する諸問題の検討、情報の交換等を行い、各社の宣伝業務が円滑、健全に遂行され、各社の輸入配給事業の活動が妨げられず、映画観客の増大に繋がる宣伝を各社が行える環境整備に努力をした。社団法人映画製作者連盟と協力して、2006年度映画ジャーナリスト・宣伝部合同年賀の会を1月10日(火)に開催し、映画関係ジャーナリストとの交流を深めた。

7. 創立50周年記念事業に関しては、政策委員会の要請を受けて、「創立50

周年記念事業企画委員会」を通して外配協各部会に通知され、審議された。

以上